

☎テレホン法話(0577)(34)

2313

○2月21日〜29日:松本大輔主計 ○3月1日〜10日:白尾匠氏 ○3月11日〜20日:畑亮氏

「よき人を隔れば
仏道は半分成就する」
(安田理深)

この言葉は何度も何度も反芻するところだ。よき人に出会うことは、つくづく思いますが、私にとって、よき人(念仏者)との出会いは、私をその方の立つていらつしやる世界へと歩ませるはたきとしてありました。

その方とおして、それまで自分をそれなりにできた人間だと思っていた自分が、実は本当に確かなものがどこにもない自分であることを知らされました。

その方との出会いの時から私はもう元の、それまでの自分と思っていた

自分にもどることはできなくなりました。その方の立っている世界への憧れに、私のその時の思いは「憧れつつ怖れる」という感じでした。憧れつつも、その方に私のありようを否定されるのが怖ろしくなると、遠くから自分の力でその方と同じ目覚めを得たいという思いで、仏教書、宗教誌を読む生活になりました。

仏書を読んで感じることはあっても、自分の心の問題は一向に変わらないういよいよ酷い、冷たい心、自己保身的な、自己中心的な心を知らされてきました。そういう自分の心に恐ろしささえ感じることもよくありました。

その方と出会って十二

「よき人を隔れば
仏道は半分成就する」
(安田理深)

この言葉は何度も何度も反芻するところだ。よき人に出会うことは、つくづく思いますが、私にとって、よき人(念仏者)との出会いは、私をその方の立つていらつしやる世界へと歩ませるはたきとしてありました。

年経たぬ時、三十九歳の頃でした。いつもこのように、ふと広げて読んだ宗教誌の一文に強く心をひかれました。私と同じようにその方の講義を受けていた、沖縄からいられた女性が、講義を受けての感想を書いておられました。

(前略)殊に私によく印象づけられたのは、「一切衆生を自分として知る人のみ真実を知る」という説であった。私はこの説に対して、幾度となく心の中でうなづいた。そこで私は、帰依することによって真実を知ることができると考えた。そして目覚めずに生涯をお

よき人をおして

藤本愛吉

念じられ
照らされて

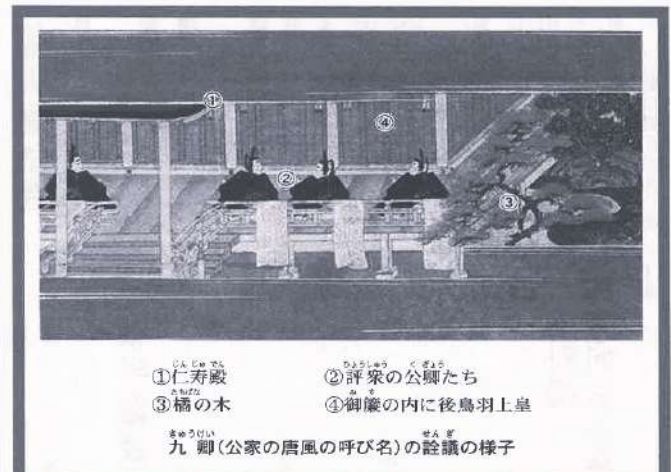


一九四七年生まれ。
元大谷専修学院指導主事。
三重県中勢二組正寶寺住職。

ひだご坊

No.271
2012年2月20日

発行 真宗大谷派 高山教務所
発行所 大町慶華
〒506-0857 高山市鉄砲町6番地
☎(0577)32-0776
※毎月20日発行 50,000部
三市一郡無料配布
印刷 山部印刷株式会社



①仁寿殿 ②評衆の公卿たち
③橘の木 ④御座の内に後鳥羽上皇
九 卿(公家の唐風の呼び名)の詮議の様子

縁解親鸞聖人縁任21

親鸞聖人絵伝下巻第一「九卿詮議」

興福寺の訴えに対し、朝廷は対応に苦慮しました。法然上人はたいそう智恵があり後鳥羽上皇や女院、前関白九条兼実など朝廷の人びとの崇敬を集めていたからです。関白九条良経や蔵人頭三条長実などの藤原氏一門は、氏寺でもある興福寺との板挟みとなりました。穏便な決着を願う上皇は、当初、専修念仏への処断を留保していました。

ところが、同年十二月、上皇の熊野行幸の留守中に、法然上人門弟の住蓮房と安樂房が別時念仏の折、上皇に無断で女御鈴虫と松虫姉妹を出家させてしまいました。これをきつかけに、上皇は一二〇七(建永二)年二月二十八日、専修念仏停止の院宣を出しました。女御を出家させた住蓮房と安樂房、外にも善純房性願房の四名が死罪、法然上人および親鸞聖人など合わせて八名が流罪に処せられました。

いのですよ、と言われていたような気がして、決断を問われました。京都での共同生活の中で仏法(真宗)を学ぶ学校があつて、当時その学院長をしていられた信国淳先生という方の「いのちは誰のものか」という本を読んだ時、あそこにも本当の先生がいるんだと知り、行くしかない、今しかないと思いました。そして、今度は先生に否定されてもいい、否定されても、先生に会って、先生に直接教えていた、だかなくては、この心の問題は今までの学び方では解けないと思うのです。その学びの途上に私はいます。

住職の言葉

私の暮らしを振り返る

益田組 桂林教会
日野 益良

東井義雄先生の詩に
「欲望の主人公」

テレビをもっと見ていたい／人よりもけいれんがしたい／食いたい 飲みたい／そういう欲望のさしずのまにしか／生きたらぬ人がある／そういう人を「欲望の奴隷」という／欲望にブレーキをかけたり／もっと美しい質の高い欲望に／高めることのできる／「欲望の主人公」になりたい

と、いろいろあります。私の暮らした「欲望の奴隷」「欲望の主人公」さて、どちらでしょうか。常に自己を中心に置いて都合良い間は当たり前に、少しでも都合に合わなければ不平を言い、相手を責め、愚痴言うそんな自分の姿にうんざりする。

奈良県立養護学校小学校六年の岡村有紀ちゃんの詩に
うまれてきてよかった／どうして／私は言語板で／おはなしすることができから／歩行器で歩くことができるから／お母さん、ありがとう／私にいのちをくれてありがとう
と、この岡村有紀ちゃんという少女は、脳性麻痺で歩けないし、話せないし、声も出ないのです。私の持っている多くのものを持たないのに、この世に誕生して来たことをよろこんでいるのです。
身・口・意の三業をしつかり受け止め、光の中で私を見つめることの出来る間は見続けられることを大事にし、見ることが出来なくなったら、その光の中に私を投げ出して行く。私を憐れくなくささえ、はぐくんでくれるはたらきの中にあることを見失うことなく、沸き上がる欲望に呑み込まれることなく、私を包むはたらきの中で私の役割を尽くしたいと思っています。
「往生は心にあり、成佛は身にある」曾我量深先生のお言葉を味わって行きたい。

『惠信尼消息』は、一九二一(大正十)年十月、京都の西本願寺の宝蔵から、真宗史学者であった鷲尾教導氏によって発見された書状である。越後に住む惠信尼が、京都にいる末娘の覚信尼に宛てて書き送ったものである。覚信尼の子の覚恵、その子覚如が見たと書き留めているので、発見と言っても、大切に仕舞われたために誰も見るのがなくなり、ついには忘れ去られてしまった手紙といったほうがよい。明治時代、公の文書や公家の日記にも記されていないという理由で、親鸞という人は実はいなかったのではないかと、『親鸞抹殺論』が、本気で考えられていた時に、この書状が発見されたことで、その実在を証明したことは有名な話である。鎌倉時代の母から娘に送った自筆の私信が、現存すること自体が貴重であるという点で、一九七五(昭和五十)年『惠信尼自筆書状類覚信尼宛(十通)』として国の重要文化財に指定されている。

この書状は、全部で十通あり、一五六(建長八)年から一二六八(文永五)年までの十三年間にわたっている。惠信尼が七十五歳から八十七歳の間、惠信尼四十三歳の子である覚信尼が三十三歳から四十五歳までの手紙ということになる。今は、この十通がまとめで、他に音読仮名書きの『大無量寿経』上巻の一部長短五紙を含めて、『惠信尼文書』という一つの巻き物になって保管されている。なお、音読仮名書きというのは、『大経』の経典の文字を写経したの

『惠信尼消息』から見える親鸞像

遺そうとした手紙

井上 円

い。今でも読み取れない部分がある。第五通のみ、特別大きな紙を二つに折って横長にし、表と裏に続けて書かれている。それが開かれた状態で表具されているので、上下逆さまの二段の書状になっている。その特異な形態を注意する必要がある。第三通と第十通は、四紙にわたる長文で、第七通と第十通は、文末が欠けた状態になっている。元号の年月日と、署名または花押が書かれているものは、第一・第二・第五通で、第二通は署名と花押が揃っている。他にも数箇所に花押が置かれている。花

押とは今という判のようなもので、特別大切な証文などに書かれるものである。日記を付けていることと合わせて、花押を持っていることと自身が、惠信尼の育ちを伺わしている。因みに第四・第八通には、別筆で元号と干支が記されている。惠信尼が覚信尼に対して、十三年間で十通しか発信しなかったと見るのは考えにくいように思う。その発信の年と書状を示すと左記のようになる。

一五六(建長八)年
第一・第二通(別の日付)
一六三(弘長三)年
第三・第四・第五・第六通(同じ日付か)
一六四(文永一)年
第七・第八通(別の日付)
一六七(文永四)年
第九通
一六八(文永五)年
第十通

「おと、しそのようは申て」と第二通等にある文面から、十通以外の書状の存在が知られる。では何故この十通だけが残ったのか。それは単なる「私信」というものではなかったからである。惠信尼が示した「証文」という性格を持った書状であるが故に、覚信尼は特に選んで、この十通を大切に後の人に遺そうとしたのである。

春の彼岸会・永代経法要

3月17日(土)～23日(金)
午後1時から勤行・法話

17日(土)	佐々木 幾代氏(浄永寺坊守)
18日(日)	三島 多間氏(真蓮寺住職)
19日(月)	三島 亮氏(不遠寺住職)
20日(火)	大町 慶華氏(別院輪番)
21日(水)	江馬 人氏(賢誓寺住職)
22日(木)	高島 成氏(常德寺住職)
23日(金)	三本 昌之氏(蓮德寺住職)

婦人間法会

日時 2月22日(水)
午後1時から
会場 高山別院御坊会館
講師 馬川 透氏
(高岡教区真教寺)

聖教学習会

日時 3月7日(水)
午後1時30分
会場 高山別院会館
講師 安富信哉氏
(大谷大学 特別任用教授)
講題 「信の系譜」
「法然から 親鸞へ」
会費 無料

高山別院 蓮如忌法要

日時 3月25日(日)
午後1時から
内容 お勤め、法話
講師 黒田進氏
(元修練道場長)
会場 高山別院 本堂
講師 三本昌之氏
講題 「御文に聞く」

参加者募集

3月27日(火)～28日(水)高山別院にて開催!

中学生・高校生のつどい

一僕たちが、本当に求めていること
【募集対象】中学1年生～高校3年生
※4月から新中学1年生になる子も参加してね!

普段の生活や関係の中で、嬉しかったり、悲しかったり、つらい事ってあるよね。本当の気持ち伝えられなくて無理したり、一緒に笑いたいのになんか笑えなかったり... お寺で飛騨地域のお友達と出会ってしゃべり場しませんか?

参加費 2,000円

【お申込み・お問合せ先】
真宗大谷派高山教務所 TEL (0577) 32-0776
募集締切日: 2012年3月19日(月)

飛騨詰所の歴史に学ぶ「京都・金沢の旅」

期日 4月1日(日)から2日(月)
行先 京都東本願寺「春の法要」に参拝します。
宿泊 飛騨詰所(東本願寺前)
参加費 17,000円
定員 20名(定員になり次第締切)
※お申込は高山教務所(32-0776)まで

「いのちのきぼう」震災と原発災害に聞く
去る1月20日(金)、仙台教区の関口真爾氏(宮城県仙台市)と佐々木道範氏(福島県二本松市)よりお話をいただきました。

関口氏は、津波の被害と避難所の風呂作や被災者との交流について、佐々木氏は原発で変わってしまった生活や、現在取り組んでいる除染作業について、お二人とも映像を交えながら自分の思いを熱く語ってくださいました。

講演の後、仙台教区仏教青年会に、チャリティシャツの売上金の一部を活動支援金としてお渡しさせていただきました。

飛騨御坊ボランティア委員会